



授業評価アンケートから見る 新型コロナウイルス禍における 授業形態と学生の行動の関係

山梨大学 教育国際化推進機構
大学教育センター

佐藤 友香, 埜 雅典, 鈴木 一克, 森澤 正之, 日永 龍彦, 鈴木 裕
登壇者

アウトライン

- 前期授業期間におけるCOVID-19対策
- **前期授業評価アンケートの分析**
(特に授業形態と学生の行動の関係について)
- まとめ

前期授業期間におけるCOVID-19対策

日永他, “COVID-19 感染拡大への緊急対策としての山梨大学における授業のオンライン化,” 日本教育工学会, 2020 年秋季全国大会, P1-03で報告

- 大学教育センター独自に情報提供を開始 (3/18)
同時に学生向けクイックスタートガイド3種を公開
- 授業のオンライン化を推奨する学長メッセージの発出(3/23)
- 教員向けオンラインツール講習会の開催 (3/24~4/3)
- 学生の所有デバイス調査 (4月頭)
- 学生, 教員対象の実施状況中間調査 (6月)
- 4週連続FD研修会 (6月~7月)



前期授業評価アンケートの実施、分析(本報告)



前期授業評価アンケート分析における リサーチクエッション (オンライン授業を受けた学生の行動)

- 山梨大学における、オンライン授業の方法の実態の把握



<行動>

- 学生の学習時間は増えたのか？
- わからないことがあった場合はどのように行動したのか？



- シラバスにある授業の目標は達成できたか？



前期授業評価アンケート分析

【目的】 オンライン授業を受けた学生の行動及び主観的達成度を明らかにする

【データソース、対象群】

前期授業評価アンケート

対象者：山梨大学1～5年次の授業受講生（のべ回答数16,285人・学生は重複）

【比較・層別化】 非同期型授業動画の有無（対照：対面のみ）

- 12.この授業は主としてどのような形態で実施されましたか。⇒【認識授業形態】
- 14～16. この授業の授業時間以外に充てた時間の合計は1週間あたり何時間ですか。
⇒【授業外学習時間】
 - 14. 合計時間（1週間あたり）
 - 15. 予習に充てた時間（1週間あたり）
 - 16. 復習に充てた時間（1週間あたり）
- 17.あなたはシラバスにある授業の具体的な達成目標をどの程度達成できたと思います
⇒【主観的達成度】
- 18.この授業で分からないことがあったとき、あなたはどうしましたか。最も重視したものを1つ選んでください。
⇒【不明点に対する解決行動】

前期授業評価アンケートの設問項目 (本報告の分析対象以外)

1. この授業のもっともよかった点はどこですか。単なる感想ではなく、具体的に書いてください。
2. あなたが教員の立場になったら、この授業をよりよいものにするために、どのようにしますか。単なる批判ではなく、改善の方法を具体的に書いてください。【オンライン授業に固有の事項は問4で回答してください】
3. 【この授業がオンライン開講された場合に回答】オンライン受講であなたが困ったことのうちアンケート回答時点で解決できていないことは何ですか？
4. 【この授業がオンライン開講された場合に回答】オンライン授業をよりよいものにするための提案があれば具体的に書いてください。 毎回の授業の到達目標が明示され、自分自身で目標の到達度の確認ができた。
5. 毎回の授業の到達目標が明示され、自分自身で目標の到達度の確認ができた。
6. 授業の進め方は、理解しやすいように工夫されていた。（教科書・参考書・配布資料の利用、板書、視聴覚機器の利用など）
7. 教員の授業に対する熱意・意欲を感じた。
8. 授業についての質問に教員から適切な指導を受けることができた。
9. 授業開始時に説明された授業計画に沿って授業が展開された。
10. 予習・復習についての指導や宿題・課題・レポートの指示は適切であった。
11. 学生が授業に主体的に参加する機会が設けられていた。
13. 各教員による個別質問 ※自由設定設問

【結果】 授業形態の実態

- 前期にはオンラインで約96%の授業が提供された（対面：約4%）
- 複数の方法を用いる形態がとられていた授業が約半数（47%）

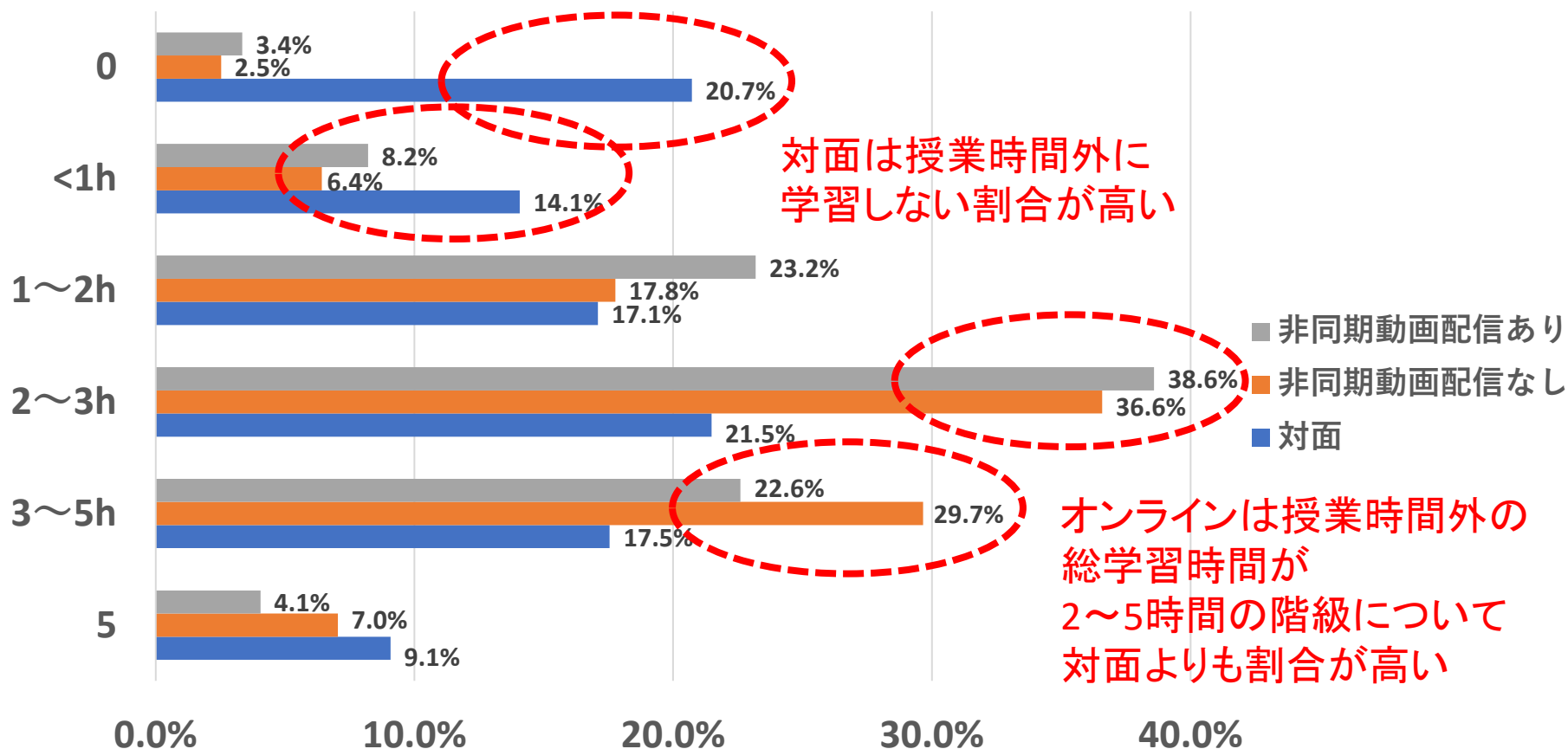
分類名		全体に対する割合	対面	収録動画	Zoom他	資料	課題	チャット	その他
対面のみ		4.1%	○	×	×	×	×	×	×
非同期型動画配信	あり	24.4%	8.2%	×	○	×	×	×	×
			10.6%	×	○	×	×	○	×
			1.4%	×	○	○	×	×	×
			4.2%	×	○	○	○	×	×
	なし	71.6%	40.8%	×	×	○	×	×	×
			8.3%	×	×	×	○	○	×
			18.7%	×	×	○	○	○	×
			0.2%	×	×	×	×	×	○
			3.6%	×	×	×	×	×	×



【比較・層別化の分類】

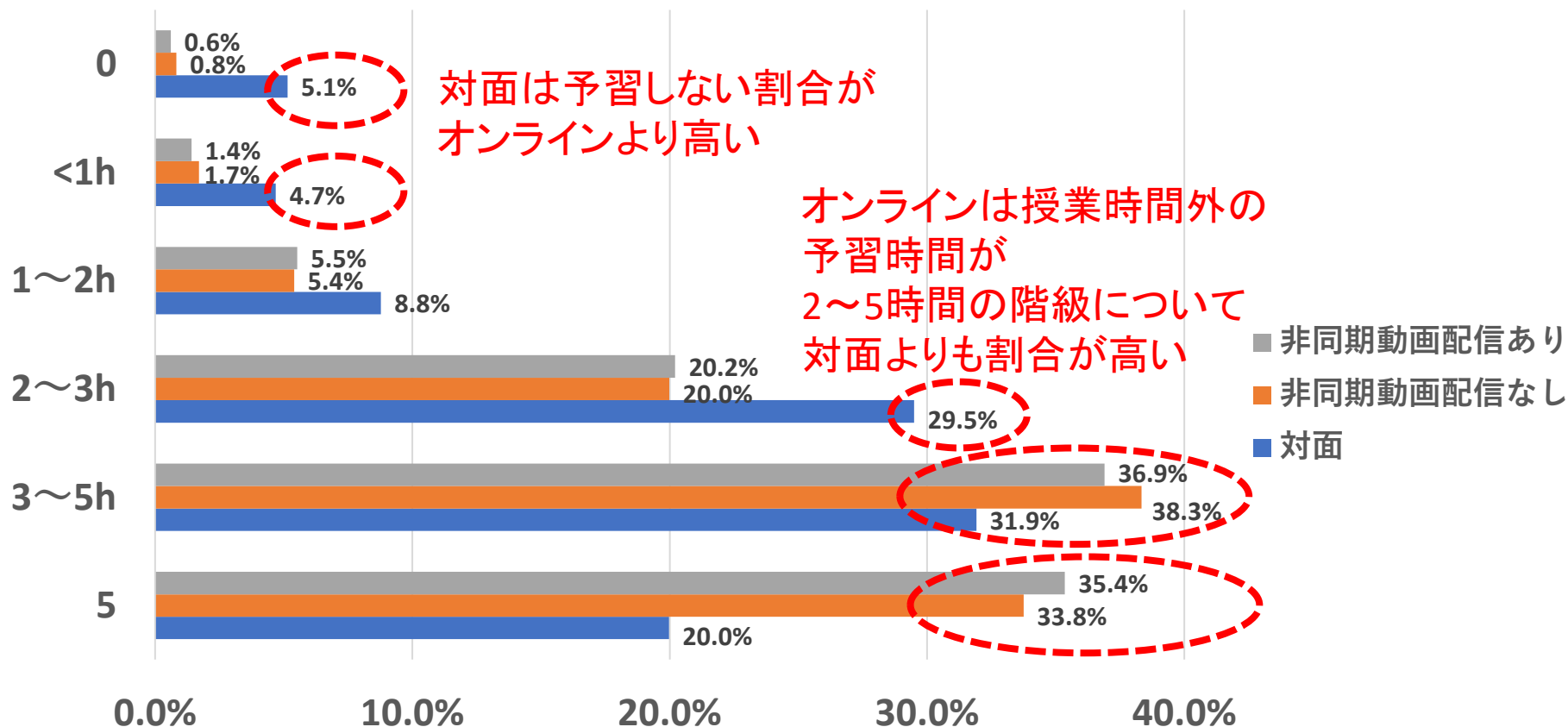
オンライン授業について、収録動画が提供されている授業を「非同期型動画配信有り」の形態群として、「無し」と分けた

【結果】学生の行動①学習時間 (授業外の総時間)



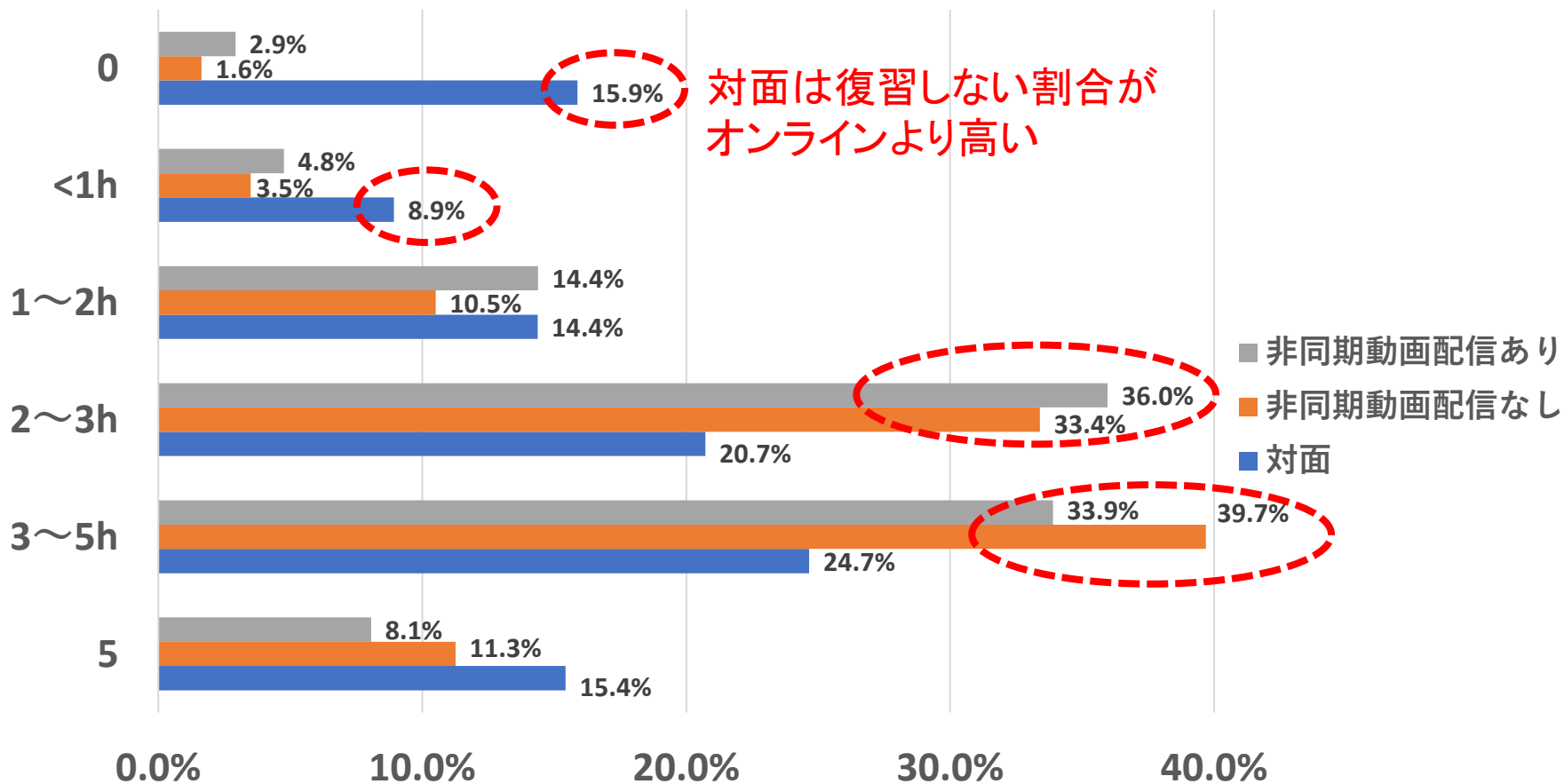
対面だと学習時間が少なく、オンラインでは多い

【結果】学生の行動①学習時間 (授業外の予習時間)



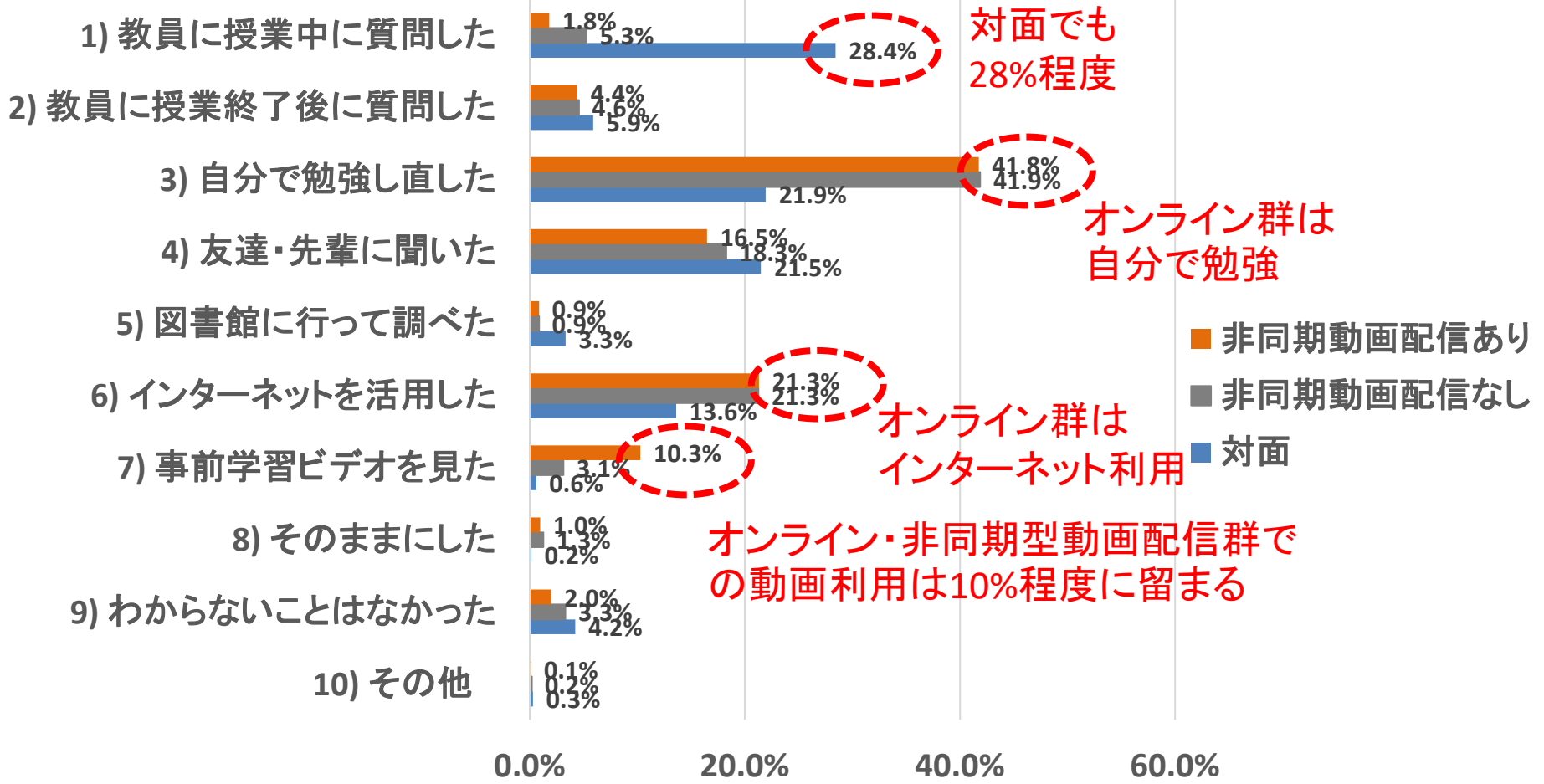
対面だと予習時間が少なく、オンラインでは多い

【結果】学生の行動①学習時間 (授業外の復習時間)



対面だと予習時間が少なく、オンラインでは多い

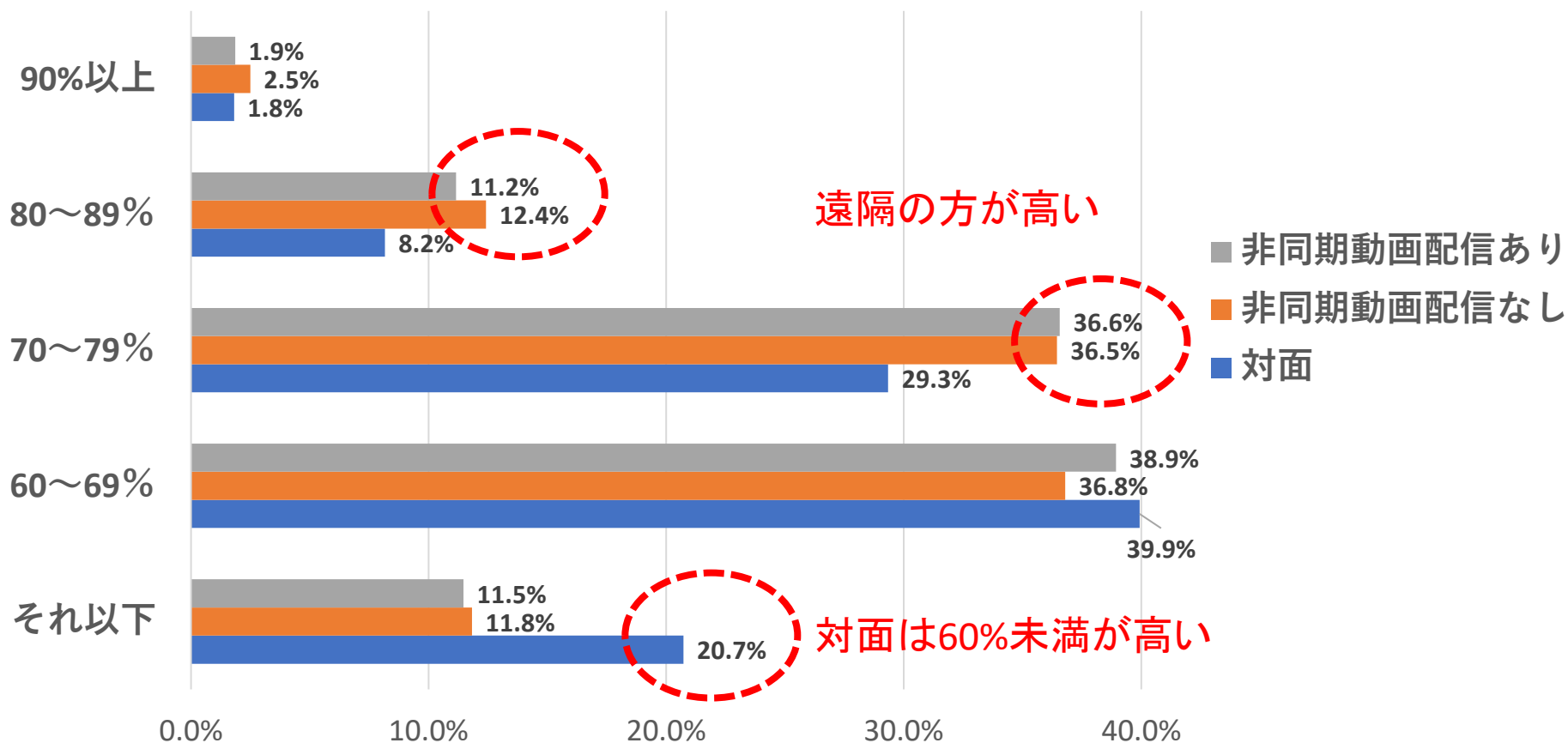
【結果】 学生の行動② 不明点への対応



実時間でも質問しない，動画配信しても視聴しない

授業評価アンケートの分析 (学生が認識する授業形態別で比較)

主観的な達成度 (認識授業形態別)

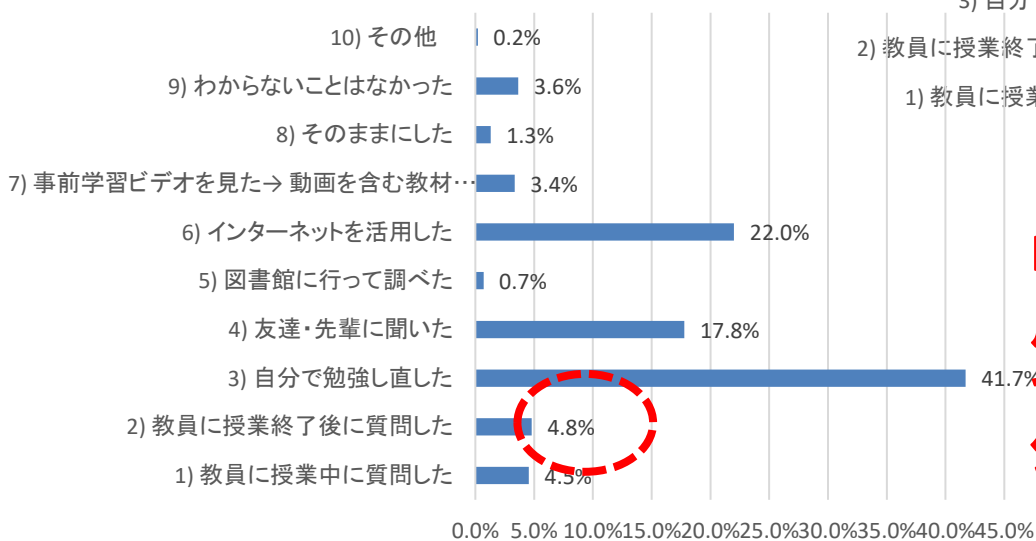


主観的達成度はオンラインの方が高かった

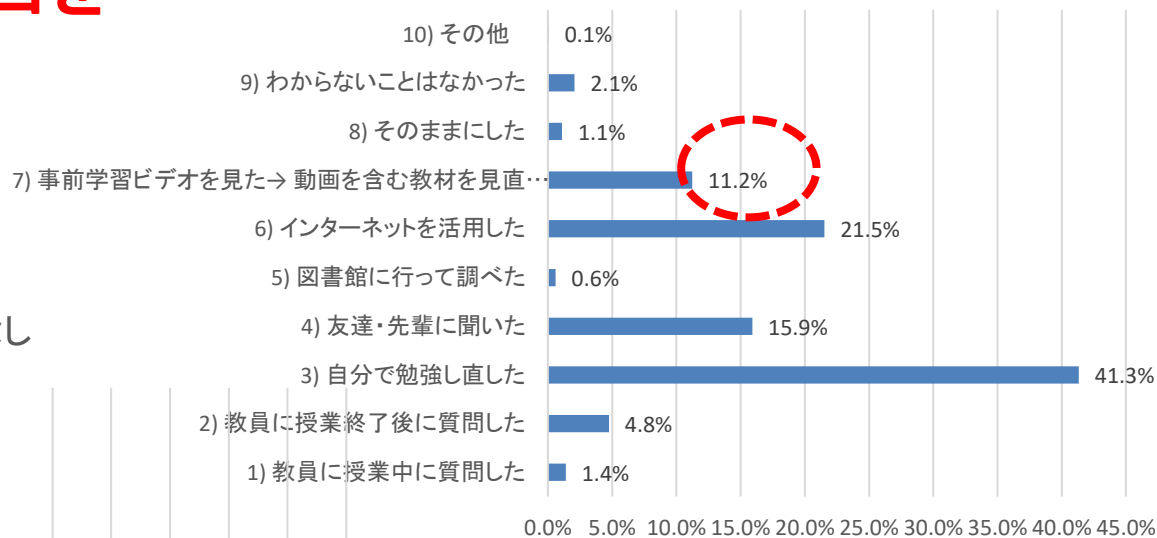
授業評価アンケートの分析 (非同期動画配信の有無で比較)

**非同期型配信動画を
視聴し直す者の
割合は少ない**

非同期動画配信なし



非同期動画配信あり



**リアルタイムオンラインでも
質問する者の割合は
少ない**



【結果】授業形態と学生の行動

【授業形態】オンライン授業の方法は、収録動画の他、Zoomや資料・課題提示、チャットなどを組み合わせて多様であった

【学生の行動①】学習時間について、対面授業を受講した学生は1週あたり0～2時間未満の割合が多く、オンライン授業受講生では同2～5時間の割合が多かった

⇒オンライン授業受講生の方が学習時間は長かった

【学生の行動②】不明点に対する解決行動について、

- ・「授業中に教員に聞いた」割合は、対面授業を受講した学生でも3割以下だった。オンライン授業受講生はさらに低く、約2～5%であった。
- ・「自分で勉強し直した」割合は、オンライン授業受講生は約4割と、対面の約2割に対して約2倍であった
- ・「事前学習ビデオを観た」割合は、オンラインで非同期型配信動画がある受講生の群でも約1割にとどまった

【学習効果】主観的達成度について、オンライン授業受講生では60%以上と回答した割合が多かった

結論と限界

【結論】 授業形態と学生の行動、達成度

- オンライン授業の受講生は学習時間が長くなり、主観的達成度が対面授業の受講生よりも高かった

【限界】 学生の自記式である

- 授業形態が正しく認識されていない可能性がある
⇒収録動画（=非同期型配信動画）の有無で比較した
- 主観的達成度と客観的達成度（試験の点数）との相関は不明である

まとめ

- 山梨大学におけるCOVID-19対策としての授業のオンライン化のための施策を時系列に沿って紹介した
 - ⇒学内に向けて早期の情報提供を行い、大きな混乱なく前期授業期間を終えることができた
- 授業評価アンケートからは、
 - ・オンライン授業の受講者で学習時間が長くなっていたこと
 - ・オンライン授業の受講者で主観的達成度が高かったこと
 - ・対面／遠隔どちらもその良さを十分に活用できていないことなどが考察された

→今後の検討事項

- ・併用が見込まれるハイブリッド・ハイフレックス型授業の効果を高める工夫
- ・客観的な達成度(テストの点数など)との関係